

大学院履修の手引き

2024年度



日本大学大学院国際関係研究科
Graduate School of International Relations
Nihon University

博士前期課程

博士前期課程 標準コース

修業年限

博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。

修士課程

博士課程は、前期2年及び後期3年の課程に区分し、前期2年の課程はこれを修士課程として取り扱う。(学則第105条第10項抜粋)

学 位

修士課程は、所定の年限在学し、専攻科目について32単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、更に修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。修士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりである。

国際関係研究科 国際関係研究専攻 修士（国際学）

在学年数

大学院における修士課程の在学年数は、4年とする。

(学則第106条第14項抜粋)

具体的履修方法

研究テーマにより国際関係、国際文化のどちらか一つを専攻分野として、セメスター制の前学期と後学期に次のように履修します。

第 1 年 次			第 2 年 次			単位合計
講 義 科 目	(1) 研究指導教員の授業科目を含めて専攻分野の授業科目 8科目以上	16単位以上	講 義 科 目	(3) 専攻関連分野2科目以上	4単位以上	24単位以上
	(2) 他の専攻分野の授業科目 2科目以上	4単位以上				
研究指導教員の研究指導Ⅰ		4単位	研究指導教員の研究指導Ⅱ		4単位	8単位
24単位以上			8単位以上			32単位以上

研究指導教員と学位（修士）論文

入学時の研究テーマにより研究指導教員は決定され、「研究指導Ⅰ」「研究指導Ⅱ」を通じて学位論文の指導を受けます。また、研究テーマの領域により必要に応じて研究指導補助教員を置き、研究指導補助教員等からも学位論文の指導を受けることがあります。授業科目の選択にあたっては、研究指導教員の指導を受け、決定してください。学位論文の審査は、研究指導教員のほか関連分野の教員を加えて行います。

最終試験

最終試験は、学位（修士）論文を中心とした口述試験及び外国語の筆記試験を行います。

【博士前期課程（標準コース）】 研究指導内容・方法、年間スケジュール

年次	時期	内容	研究指導概要
1年次	4月～	研究指導教員による研究指導及び論文指導	①研究指導教員との面談を通じて、院生の関心事を聞く。 ②研究する上で、何が課題かを見出し、どのような指導が必要なのかを明確にする。 ③研究テーマにあった資料・情報入手の仕方や研究方法についてともに考える。
2年次	4月～	研究指導教員による研究指導及び論文指導	①前年度までの研究から、どの程度進展したかを確認する。 ②研究が上手くいかない場合、困難な点を聞き、相談に応じる。また、修士論文執筆に必要な条件等を確認し、それらの要件を満たすにはどうしたらよいかを考えさせ、質問や相談に応じる。
	7月	博士前期課程「研究指導Ⅱ」受講者 学位（修士）論文中間発表会テーマ票提出期間	学位（修士）論文中間発表会テーマ票を研究指導教員を経て、教務課へ提出する。
	9月	博士前期課程「研究指導Ⅱ」受講者 学位（修士）論文中間発表会要旨提出期間	学位（修士）論文中間発表会要旨を研究指導教員を経て、教務課へ提出する。
	10月	博士前期課程「研究指導Ⅱ」受講者 学位（修士）論文中間発表会実施	学位（修士）論文中間発表会において、助言・指導を行う。
	1月	学位（修士）論文提出届提出 学位（修士）論文の提出	論文提出届出を研究指導教員を経て、教務課に提出する。 修士論文を研究指導教員を経て、教務課へ提出する。
	2月	最終試験実施 学位の授与について審議（修了判定）	外国語（筆記）及び提出された論文を中心に口述試験をする。 大学院分科委員会にて学位の授与について審議する。
	3月	学位記授与	

令和6年度博士前期課程授業科目及び単位数並びに履修方法と科目担当者

国際関係研究科における授業科目及び単位数並びにその履修方法及び教員紹介は、次のとおりである。
(学則第125条)

国際関係研究専攻（博士前期課程 標準コース）

専攻分野	関連群	授 業 科 目	単位数	必修単位数	選択単位数	科 目 担 当 者
国際関係	国際関係論関連	国際関係研究 A1	2		2	特任教授 石田 勝之
		国際関係研究 A2	2		2	特任教授 石田 勝之
		国際関係研究 B1	2		2	教授 博士(国際関係) 鄭 勛 燮
		国際関係研究 B2	2		2	教授 博士(国際関係) 鄭 勛 燮
		国際関係研究 C1	2		2	教授 博士(安全保障学) 佐野 秀太郎
		国際関係研究 C2	2		2	教授 博士(安全保障学) 佐野 秀太郎
		安全保障研究 1	2		2	講師 博士(国際関係) 吉本 隆 昭
		安全保障研究 2	2		2	講師 博士(国際関係) 吉本 隆 昭
		戦略論研究 1	2		2	教授 博士(学術) 浅川 道 夫
		戦略論研究 2	2		2	教授 博士(学術) 浅川 道 夫
		地域研究 A 1	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 A 2	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 B 1	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 B 2	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 C 1	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 C 2	2		2	(本年度は開講せず)
	国際関係法関連	国際法研究 A 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際法研究 A 2	2		2	(本年度は開講せず)
		国際法研究 B 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際法研究 B 2	2		2	(本年度は開講せず)
		国際私法研究 1	2		2	教授 小野 健太郎
		国際私法研究 2	2		2	教授 小野 健太郎
		比較法研究 1	2		2	教授 小野 健太郎
		比較法研究 2	2		2	教授 小野 健太郎
	国際経済関連	国際経済研究 A1	2		2	特任教授 博士(国際関係) 大淵 三 洋
		国際経済研究 A2	2		2	特任教授 博士(国際関係) 大淵 三 洋
		国際経済研究 B1	2		2	准教授 博士(経営学) 宮 城 博 文
		国際経済研究 B2	2		2	准教授 博士(経営学) 宮 城 博 文
		国際経済研究 C1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際経済研究 C2	2		2	(本年度は開講せず)
		地域経済研究 A1	2		2	講師 P h . D . 法 専 充 男
		地域経済研究 A2	2		2	講師 P h . D . 法 専 充 男
		地域経済研究 B1	2		2	准教授 川 口 智 彦
		地域経済研究 B2	2		2	准教授 川 口 智 彦
		地域経済研究 C1	2		2	教授 博士(経済学) 陳 文 挙
		地域経済研究 C2	2		2	教授 博士(経済学) 陳 文 挙
		国際貿易研究 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際貿易研究 2	2		2	(本年度は開講せず)
		国際経営研究 A1	2		2	教授 笥 正 治
		国際経営研究 A2	2		2	教授 笥 正 治
		国際経営研究 B1	2		2	教授 博士(国際関係) 蓼 沼 智 行
		国際経営研究 B2	2		2	教授 博士(国際関係) 蓼 沼 智 行
		国際金融研究 1	2		2	教授 武 田 英 俊
		国際金融研究 2	2		2	教授 武 田 英 俊
		国際投資研究 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際投資研究 2	2		2	(本年度は開講せず)
		地域産業振興研究 1	2		2	教授 宍 戸 学
		地域産業振興研究 2	2		2	教授 宍 戸 学
	国際環境・資源関連	国際環境研究 1	2		2	講師 博士(工学) 堅 尾 和 夫
		国際環境研究 2	2		2	講師 博士(工学) 堅 尾 和 夫
		国際資源研究 1	2		2	講師 博士(工学) 堅 尾 和 夫
		国際資源研究 2	2		2	講師 博士(工学) 堅 尾 和 夫

専攻分野	関連群	授 業 科 目	単位数	必修単位数	選択単位数	科 目 担 当 者
国際関係	国際協力関連	国際協力研究1（国際環境協力）	2		2	教 授 博士(農学) 鈴木 和 信
		国際協力研究2（国際環境協力）	2		2	教 授 博士(農学) 鈴木 和 信
		国際協力研究1（地球環境問題）	2		2	特 任 教 授 博士(工学) 山中 康 資
		国際協力研究2（地球環境問題）	2		2	特 任 教 授 博士(工学) 山中 康 資
		国 際 開 発 研 究 1	2		2	教 授 富岡 丈 朗
		国 際 開 発 研 究 2	2		2	教 授 富岡 丈 朗
	国際IT・情報関連	情 報 管 理 研 究 1	2		2	教 授 吉田 典 弘
		情 報 管 理 研 究 2	2		2	教 授 吉田 典 弘
		国 際 I T 戦 略 研 究 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国 際 I T 戦 略 研 究 2	2		2	(本年度は開講せず)
国際文化	地域文化関連	地域文化研究A1（宗教文化）	2		2	教 授 P h . D . 松 本 佐 保
		地域文化研究A2（宗教文化）	2		2	教 授 P h . D . 松 本 佐 保
		地域文化研究A1（中国文化）	2		2	特 任 教 授 呉 川
		地域文化研究A2（中国文化）	2		2	特 任 教 授 呉 川
		地 域 文 化 研 究 B1	2		2	教 授 生 内 裕 子
		地 域 文 化 研 究 B2	2		2	教 授 生 内 裕 子
		地 域 文 化 研 究 C1	2		2	特 任 教 授 P h . D . 小 代 有 希 子
		地 域 文 化 研 究 C2	2		2	特 任 教 授 P h . D . 小 代 有 希 子
		地 域 文 化 研 究 D1	2		2	教 授 P h . D . 角 田 哲 康
		地 域 文 化 研 究 D2	2		2	教 授 P h . D . 角 田 哲 康
		地 域 文 化 研 究 E1	2		2	講 師 高 橋 章
		地 域 文 化 研 究 E2	2		2	講 師 高 橋 章
		地 域 文 化 研 究 F1	2		2	特 任 教 授 博士(国際関係) 濱 屋 雅 軌
		地 域 文 化 研 究 F2	2		2	特 任 教 授 博士(国際関係) 濱 屋 雅 軌
		地 域 文 化 研 究 G1	2		2	教 授 P h . D . 渡 邊 武 一 郎
		地 域 文 化 研 究 G2	2		2	教 授 P h . D . 渡 邊 武 一 郎
		地 域 文 化 研 究 H1	2		2	教 授 松 本 美 千 代
		地 域 文 化 研 究 H2	2		2	教 授 松 本 美 千 代
	比較文化関連	比 較 文 化 研 究 A1	2		2	(本年度は開講せず)
		比 較 文 化 研 究 A2	2		2	(本年度は開講せず)
		比 較 文 化 研 究 B1	2		2	(本年度は開講せず)
		比 較 文 化 研 究 B2	2		2	(本年度は開講せず)
		比 較 文 化 研 究 C1	2		2	講 師 博士(国際関係) 田 中 徳 一
		比 較 文 化 研 究 C2	2		2	講 師 博士(国際関係) 田 中 徳 一
		比 較 文 化 研 究 D1	2		2	准 教 授 高 塚 浩 由 樹
		比 較 文 化 研 究 D2	2		2	准 教 授 高 塚 浩 由 樹
		比 較 文 化 研 究 E1	2		2	特 任 教 授 安 元 隆 子
		比 較 文 化 研 究 E2	2		2	特 任 教 授 安 元 隆 子
		比較文化研究F1（言語の仕組みと運用）	2		2	講 師 P h . D . 大 川 英 明
		比較文化研究F2（言語の仕組みと運用）	2		2	講 師 P h . D . 大 川 英 明
	国際表象文化関連	比較文化研究F1（日中比較文化）	2		2	講 師 博士(国際関係) 小 田 切 文 洋
		比較文化研究F2（日中比較文化）	2		2	講 師 博士(国際関係) 小 田 切 文 洋
		国 際 表 象 文 化 研 究 A1	2		2	教 授 橋 本 由 紀 子
		国 際 表 象 文 化 研 究 A2	2		2	教 授 橋 本 由 紀 子
		国 際 表 象 文 化 研 究 B1	2		2	講 師 平 野 明 彦
		国 際 表 象 文 化 研 究 B2	2		2	講 師 平 野 明 彦
	比較社会関連	国 際 表 象 文 化 研 究 C1	2		2	特 任 教 授 宗 形 賢 二
		国 際 表 象 文 化 研 究 C2	2		2	特 任 教 授 宗 形 賢 二
		比較社会研究A1（臨床心理）	2		2	教 授 有 木 永 子
		比較社会研究A2（臨床心理）	2		2	教 授 有 木 永 子
		比較社会研究A1（社会心理）	2		2	教 授 博士(心理学) 伊 坂 裕 子
		比較社会研究A2（社会心理）	2		2	教 授 博士(心理学) 伊 坂 裕 子
		比較社会研究A1（日米比較社会）	2		2	准 教 授 P h . D . 武 井 勲
		比較社会研究A2（日米比較社会）	2		2	准 教 授 P h . D . 武 井 勲
		比 較 社 会 研 究 B1	2		2	教 授 永 塚 史 孝
		比 較 社 会 研 究 B2	2		2	教 授 永 塚 史 孝
		比 較 社 会 研 究 C1	2		2	教 授 P h . D . 小 川 直 人
		比 較 社 会 研 究 C2	2		2	教 授 P h . D . 小 川 直 人

専攻分野	関連群	授 業 科 目	単位数	必修単位数	選択単位数	科 目 担 当 者
国際文化	比較社会関連	比 較 社 会 研 究 D1	2		2	教 授 富士原 雅 弘
		比 較 社 会 研 究 D2	2		2	教 授 富士原 雅 弘
		比 較 社 会 研 究 E1	2		2	教 授 博士(福祉社会学) 上 田 光 明
		比 較 社 会 研 究 E2	2		2	教 授 博士(福祉社会学) 上 田 光 明
	翻訳学関連	翻 訳 理 論 1	2		2	教 授 芳 賀 理 彦
		翻 訳 理 論 2	2		2	教 授 芳 賀 理 彦
		翻 訳 法 1	2		2	(本年度は開講せず)
		翻 訳 法 2	2		2	(本年度は開講せず)
		外 国 文 献 研 究 A1	2		2	特 任 教 授 宗 形 賢 二
		外 国 文 献 研 究 A2	2		2	特 任 教 授 宗 形 賢 二
		外 国 文 献 研 究 B1	2		2	(本年度は開講せず)
		外 国 文 献 研 究 B2	2		2	(本年度は開講せず)
		外 国 文 献 研 究 C1	2		2	(本年度は開講せず)
		外 国 文 献 研 究 C2	2		2	(本年度は開講せず)
		特 別 講 座 I	2		2	(本年度は開講せず)
		特 別 講 座 II	2		2	(本年度は開講せず)
研 究 指 導 論	研究単位	I II 文	4 4	4 4		教 授 博士(学術) 浅 川 道 夫
						教 授 有 木 永 子
						教 授 博士(心理学) 伊 坂 裕 子
						教 授 博士(福祉社会学) 上 田 光 明
						教 授 P h . D . 小 川 直 人
						教 授 小 野 健太郎
						教 授 博士(安全保障学) 佐 野 秀太郎
						教 授 穴 戸 学
						教 授 博士(農学) 鈴 木 和 信
						教 授 P h . D . 角 田 哲 康
						教 授 博士(国際関係) 蓼 沼 智 行
						教 授 博士(国際関係) 鄭 助 燮
						教 授 博士(経済学) 陳 文 拳
						教 授 富 岡 丈 朗
						教 授 永 塚 史 孝
						教 授 生 内 裕 子
						教 授 橋 本 由紀子
						教 授 P h . D . 松 本 佐 保
						教 授 P h . D . 渡 邊 武一郎

大学院国際関係研究科コースプログラム

1 趣旨

大学院国際関係研究科コースプログラムとは、大学院生の幅広い知識修得と高度な専門能力の向上、更に学生の学習意欲をかき立てることを目的とし、本研究科博士前期課程の修了要件とは別に、体系づけられた科目群からなるコースを履修し、特定分野の学習成果を国際関係研究科として認証する制度である。

2 コースプログラム

コースプログラムの内容は、本研究科博士前期課程の開講科目を基に、当該課程の修了要件とは別に定める。

コースプログラムには、「安全保障コースプログラム」と「翻訳コースプログラム」の2種類がある。

3 コースプログラム修了条件

- ① コースプログラムの履修者は、本研究科博士前期課程（標準・1年コース）の正規生を対象とし、各学年の学期の始めに、別に定める所定の期間内に希望コースの申請をし、コース履修の許可を受けなければならない。
- ② コースプログラム修了条件は、各コースプログラムから、その履修条件に従い16単位以上修得するものとする。

4 修了証

修了者には、修了学期ごとに、本研究科長名で修了証を授与するものとする。ただし、各種証明書としては発行しないものとする。

5 付記

本コースプログラムは、平成27年度大学院国際関係研究科博士前期課程入学生から適用する。

『安全保障コースプログラム』指定科目・履修条件一覧表

1 設置目的

安全保障コースプログラムは、安全保障問題に関する高度な専門知識を有する人材の養成を目的として設置するものである。

2 指定科目・履修条件等

整理 番号	授業科目名	単位数	設置 学年	履修期 (前期・後期・年間)	受入可能人数	履修条件等
1	安全保障研究 1	2	1	前期	若干名	コース必修科目
2	安全保障研究 2	2	1	後期	若干名	コース必修科目
3	戦略論研究 1	2	1	前期	若干名	コース必修科目
4	戦略論研究 2	2	1	後期	若干名	コース必修科目
5	国際関係研究 A 1	2	1	前期	若干名	左記の科目のうち 4 単位以上修得
6	国際関係研究 A 2	2	1	後期	若干名	
7	国際関係研究 B 1	2	1	前期	若干名	
8	国際関係研究 B 2	2	1	後期	若干名	
9	国際関係研究 C 1	2	1	前期	若干名	
10	国際関係研究 C 2	2	1	後期	若干名	左記の科目のうち 4 単位以上修得
11	国際法研究 A 1	2	1	前期	若干名	
12	国際法研究 A 2	2	1	後期	若干名	
13	国際法研究 B 1	2	1	前期	若干名	
14	国際法研究 B 2	2	1	後期	若干名	

3 履修要項

- ① 修得単位数は 16 単位とする。
- ② 履修申請時期は、各学年の学期の始めとする。
- ③ 申請時期、手続きその他詳細については、LCUのお知らせ掲示板をもって周知する。
- ④ 授業科目の履修期（前期・後期・通年）は、毎年度の時間割により変更する場合がある。

『翻訳コースプログラム』指定科目・履修条件一覧表

1 設置目的

翻訳コースプログラムは、翻訳の理論・方法・実践に関する高度な知識と技術を有する人材の育成を目的として設置するものである。

2 指定科目・履修条件等

整理 番号	授業科目名	単位数	設置 学年	履修期 (前期・後期・年間)	受入可能人数	履修条件等
1	翻訳理論 1	2	1	前期	若干名	コース必修科目
2	翻訳理論 2	2	1	後期	若干名	コース必修科目
3	翻訳法 1	2	1	前期	若干名	コース必修科目
4	翻訳法 2	2	1	後期	若干名	コース必修科目
5	外国文献研究 A 1	2	1	前期	若干名	左記の科目のうち 8単位以上修得
6	外国文献研究 A 2	2	1	後期	若干名	
7	外国文献研究 B 1	2	1	前期	若干名	
8	外国文献研究 B 2	2	1	後期	若干名	
9	外国文献研究 C 1	2	1	前期	若干名	
10	外国文献研究 C 2	2	1	後期	若干名	

3 履修要項

- ① 修得単位数は16単位とする。
- ② 履修申請時期は、各学年の学期の始めとする。
- ③ 申請時期、手続きその他詳細については、LCUのお知らせ掲示板をもって周知する。
- ④ 授業科目の履修期（前期・後期・通年）は、毎年度の時間割により変更する場合がある。

令和6年度学位（修士）論文提出要領

学位（修士）論文提出に関する日程

1 「学位論文提出届」提出期間

令和7年1月14日（火）～15日（水）（厳守）

「学位（修士）論文提出届」（別紙）を切り離して提出すること。

・住民票記載事項証明書1通を添付する。

※学籍簿・学位記（氏名・生年月日）確認のため。

2 学位論文（口述試験用）提出期間

令和7年1月20日（月）～21日（火）10時～16時（厳守）

学位論文を2部（正1部，副1部：ダブルクリップで止める）教務課へ提出すること。

3 最終試験

令和7年2月5日（水）

集合時刻 9時40分 集合場所 教務課

① 外国語 母国語以外の外国語の筆記試験

② 口述試験 修士論文の内容を中心とし，これに関連のある領域について試問します。

※ 学生証及び論文を持参すること。

学位（修士）論文製本について

1 「学位（修士）論文製本申込書」及び「製本用論文」提出日

令和7年2月12日（水）～13日（木）9時～17時

「令和6年度学位（修士）論文製本申込書」を切り離し，製本料（5,500円／1部）の証紙と製本する部数分の論文を添えて教務課へ提出すること。

2 製本用論文の部数

① 本学図書館保管用に1部

② ①以外に本人の製本希望部数

※ 製本した論文を宅配便で返却を希望する場合，着払いで送付するので申し出ること。

※ 最終試験で指摘された箇所を修正し，研究指導教員から許可を得た上で提出すること。

学位（修士）論文の用紙・書式

1 日本語の場合

- ① A 4 判白色上質紙を使用し、**片面印刷**とし、注及び参考文献などは巻末にまとめること。
- ② 文字サイズは表紙 14 ポイント、目次・本文は 12 ポイント、1 行字数は 40 字、1 頁 36 行とする。
- ③ 論文題名・副題・研究指導教員（主）・（副）名を記入する。
- ④ ページ番号は、表紙・目次を除き、本文から付番する。

令和〇〇年度 修士論文
論文名
—副題—
研究指導教員（主）：○ ○ ○ ○
研究指導教員（副）：○ ○ ○ ○
日本大学大学院国際関係研究科国際関係研究専攻
博士前期課程（学生番号）
日 大 太 郎

2 英語の場合

- ① A 4 判白色上質紙を使用し、**片面印刷**とし、ダブルスペースで入力し、注及び参考文献などは巻末にまとめること。

学位（修士）論文は、研究指導教員の指示に従って作成してください。

学位（修士）論文審査に係る評価のポイント

- 1 論文の題名は内容に対して適切であるか。
 - 2 問題意識が明確であるか。
 - 3 構成は適切であるか。
 - 4 先行研究に対して必要なレビューをしているか。
 - 5 論述の論理性は適切であるか。
 - 6 参考（引用）文献は適切であるか。
- ※ 上記ポイントとは別に、研究分野に応じて個別のポイントが付加される場合があります。

その他

日本大学大学院国際関係研究科博士後期課程に進学希望者は、入学試験出願時（第 1 期 9 月・第 2 期 1 月）に学位論文を提出することになります。

博士前期課程 1年コース

修業年限

博士前期課程の標準修業年限は、1年とする。

学 位

所定の年限在学し、専攻科目について32単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、更に修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。修士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりである。

国際関係研究科 国際関係研究専攻 修士（国際学）

在学年数

大学院における修士課程の在学年数は、標準年限を1年とした修士課程にあっては2年とする。
（学則第106条第14項抜粋）

具体的履修方法

研究テーマにより国際関係、国際文化のどちらか一つを専攻分野として Semester 制の前学期と後学期に次のように履修します。

第 1 年 次		
講 義 科 目	(1) 研究指導教員の授業科目を含めて専攻分野の授業科目 10科目以上	20単位以上
	(2) 他の専攻分野の授業科目 2科目以上	4単位以上
研究指導教員の研究指導Ⅰ・Ⅱ		8単位
32単位以上		

研究指導教員と学位（修士）論文

入学時の研究テーマにより研究指導教員は決定され、「研究指導Ⅰ」「研究指導Ⅱ」を通じて学位論文の指導を受けます。また、研究テーマの領域により必要に応じて研究指導補助教員等を置き、研究指導補助教員等からも学位論文の指導を受けることがあります。授業科目の選択にあたっては、研究指導教員の指導を受けて決定してください。学位論文の審査は、研究指導教員のほか関連分野の教員を加えて行います。

最終試験

最終試験は、学位論文を中心とした口述試験を行います。

【博士前期課程（1年コース）】研究指導内容・方法、年間スケジュール

年次	時期	内容	研究指導概要
1年次	4月～	研究指導教員による研究指導及び論文指導	①入学時の研究テーマ及び研究内容を確認する。 ②研究指導教員との面談を通じて、院生の関心事を聞く。 ③研究する上で、何が課題かを見出し、どのような指導が必要なのかを明確にする。 ④研究テーマにあった資料・情報入手の仕方や研究方法についてともに考える。 ⑤研究が上手いいかない場合、困難な点を聞き、相談に応じる。また、修士論文執筆に必要な条件等を確認し、それらの要件を満たすにはどうしたらよいかを考えさせ、質問や相談に応じる。
	7月	博士前期課程「研究指導Ⅱ」受講者 学位（修士）論文中間発表会テーマ票提出期間	学位（修士）論文中間発表会テーマ票を研究指導教員を経て、教務課へ提出する。
	9月	博士前期課程「研究指導Ⅱ」受講者 学位（修士）論文中間発表会要旨提出期間	学位（修士）論文中間発表会要旨を研究指導教員を経て、教務課へ提出する。
	10月	博士前期課程「研究指導Ⅱ」受講者 学位（修士）論文中間発表会実施	学位（修士）論文中間発表会において、助言・指導を行う。
	1月	学位（修士）論文提出届提出	論文提出届出を研究指導教員を経て、教務課に提出する。
		学位（修士）論文の提出	修士論文を研究指導教員を経て、教務課へ提出する。
	2月	最終試験実施	外国語（筆記）及び提出された論文を中心に口述試験をする。
		学位の授与について審議（修了判定）	大学院分科委員会にて学位の授与について審議する。
	3月	学位記授与	

令和6年度博士前期課程授業科目及び単位数並びに履修方法と科目担当者

国際関係研究科における授業科目及び単位数並びにその履修方法及び教員紹介は、次のとおりである。
(学則第125条)

国際関係研究専攻（博士前期課程 1年コース）

専攻分野	関連群	授 業 科 目	単位数	必修単位数	選択単位数	科 目 担 当 者
国際関係	国際関係論関連	国際関係研究 A1	2		2	特任教授 石田 勝之
		国際関係研究 A2	2		2	特任教授 石田 勝之
		国際関係研究 B1	2		2	教授 博士(国際関係) 鄭 勛 燮
		国際関係研究 B2	2		2	教授 博士(国際関係) 鄭 勛 燮
		国際関係研究 C1	2		2	教授 博士(安全保障学) 佐野 秀太郎
		国際関係研究 C2	2		2	教授 博士(安全保障学) 佐野 秀太郎
		安全保障研究 1	2		2	講師 博士(国際関係) 吉本 隆 昭
		安全保障研究 2	2		2	講師 博士(国際関係) 吉本 隆 昭
		戦略論研究 1	2		2	教授 博士(学術) 浅川 道 夫
		戦略論研究 2	2		2	教授 博士(学術) 浅川 道 夫
		地域研究 A 1	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 A 2	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 B 1	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 B 2	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 C 1	2		2	(本年度は開講せず)
		地域研究 C 2	2		2	(本年度は開講せず)
	国際関係法関連	国際法研究 A 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際法研究 A 2	2		2	(本年度は開講せず)
		国際法研究 B 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際法研究 B 2	2		2	(本年度は開講せず)
		国際私法研究 1	2		2	教授 小野 健太郎
		国際私法研究 2	2		2	教授 小野 健太郎
		比較法研究 1	2		2	教授 小野 健太郎
		比較法研究 2	2		2	教授 小野 健太郎
	国際経済関連	国際経済研究 A1	2		2	特任教授 博士(国際関係) 大淵 三 洋
		国際経済研究 A2	2		2	特任教授 博士(国際関係) 大淵 三 洋
		国際経済研究 B1	2		2	准教授 博士(経営学) 宮城 博 文
		国際経済研究 B2	2		2	准教授 博士(経営学) 宮城 博 文
		国際経済研究 C1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際経済研究 C2	2		2	(本年度は開講せず)
		地域経済研究 A1	2		2	講師 P h . D . 法 専 充 男
		地域経済研究 A2	2		2	講師 P h . D . 法 専 充 男
		地域経済研究 B1	2		2	准教授 川口 智 彦
		地域経済研究 B2	2		2	准教授 川口 智 彦
		地域経済研究 C1	2		2	教授 博士(経済学) 陳 文 挙
		地域経済研究 C2	2		2	教授 博士(経済学) 陳 文 挙
		国際貿易研究 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際貿易研究 2	2		2	(本年度は開講せず)
		国際経営研究 A1	2		2	教授 笥 正 治
		国際経営研究 A2	2		2	教授 笥 正 治
		国際経営研究 B1	2		2	教授 博士(国際関係) 蓼 沼 智 行
		国際経営研究 B2	2		2	教授 博士(国際関係) 蓼 沼 智 行
		国際金融研究 1	2		2	教授 武田 英 俊
		国際金融研究 2	2		2	教授 武田 英 俊
		国際投資研究 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国際投資研究 2	2		2	(本年度は開講せず)
		地域産業振興研究1	2		2	教授 宍 戸 学
		地域産業振興研究2	2		2	教授 宍 戸 学
	資源関連	国際環境研究 1	2		2	講師 博士(工学) 堅 尾 和 夫
		国際環境研究 2	2		2	講師 博士(工学) 堅 尾 和 夫
		国際資源研究 1	2		2	講師 博士(工学) 堅 尾 和 夫
		国際資源研究 2	2		2	講師 博士(工学) 堅 尾 和 夫

専攻分野	関連群	授 業 科 目	単位数	必修単位数	選択単位数	科 目 担 当 者
国際関係	国際協力関連	国際協力研究1（国際環境協力）	2		2	教 授 博士(農学) 鈴木 和 信
		国際協力研究2（国際環境協力）	2		2	教 授 博士(農学) 鈴木 和 信
		国際協力研究1（地球環境問題）	2		2	特 任 教 授 博士(工学) 山中 康 資
		国際協力研究2（地球環境問題）	2		2	特 任 教 授 博士(工学) 山中 康 資
		国 際 開 発 研 究 1	2		2	教 授 富岡 丈 朗
		国 際 開 発 研 究 2	2		2	教 授 富岡 丈 朗
	国際IT・情報関連	情 報 管 理 研 究 1	2		2	教 授 吉田 典 弘
		情 報 管 理 研 究 2	2		2	教 授 吉田 典 弘
		国 際 I T 戦 略 研 究 1	2		2	(本年度は開講せず)
		国 際 I T 戦 略 研 究 2	2		2	(本年度は開講せず)
国際文化	地域文化関連	地域文化研究 A1（宗教文化）	2		2	教 授 P h . D . 松 本 佐 保
		地域文化研究 A2（宗教文化）	2		2	教 授 P h . D . 松 本 佐 保
		地域文化研究 A1（中国文化）	2		2	特 任 教 授 呉 川
		地域文化研究 A2（中国文化）	2		2	特 任 教 授 呉 川
		地 域 文 化 研 究 B1	2		2	教 授 生 内 裕 子
		地 域 文 化 研 究 B2	2		2	教 授 生 内 裕 子
		地 域 文 化 研 究 C1	2		2	教 授 P h . D . 小 代 有 希 子
		地 域 文 化 研 究 C2	2		2	教 授 P h . D . 小 代 有 希 子
		地 域 文 化 研 究 D1	2		2	教 授 P h . D . 角 田 哲 康
		地 域 文 化 研 究 D2	2		2	教 授 P h . D . 角 田 哲 康
		地 域 文 化 研 究 E1	2		2	講 師 高 橋 章
		地 域 文 化 研 究 E2	2		2	講 師 高 橋 章
		地 域 文 化 研 究 F1	2		2	特 任 教 授 博士(国際関係) 濱 屋 雅 軌
		地 域 文 化 研 究 F2	2		2	特 任 教 授 博士(国際関係) 濱 屋 雅 軌
		地 域 文 化 研 究 G1	2		2	教 授 P h . D . 渡 邊 武 一 郎
		地 域 文 化 研 究 G2	2		2	教 授 P h . D . 渡 邊 武 一 郎
		地 域 文 化 研 究 H1	2		2	教 授 松 本 美 千 代
		地 域 文 化 研 究 H2	2		2	教 授 松 本 美 千 代
	比較文化関連	比 較 文 化 研 究 A1	2		2	(本年度は開講せず)
		比 較 文 化 研 究 A2	2		2	(本年度は開講せず)
		比 較 文 化 研 究 B1	2		2	(本年度は開講せず)
		比 較 文 化 研 究 B2	2		2	(本年度は開講せず)
		比 較 文 化 研 究 C1	2		2	講 師 博士(国際関係) 田 中 徳 一
		比 較 文 化 研 究 C2	2		2	講 師 博士(国際関係) 田 中 徳 一
		比 較 文 化 研 究 D1	2		2	准 教 授 高 塚 浩 由 樹
		比 較 文 化 研 究 D2	2		2	准 教 授 高 塚 浩 由 樹
		比 較 文 化 研 究 E1	2		2	特 任 教 授 安 元 隆 子
		比 較 文 化 研 究 E2	2		2	特 任 教 授 安 元 隆 子
		比較文化研究 F1（言語の仕組みと運用）	2		2	講 師 P h . D . 大 川 英 明
		比較文化研究 F2（言語の仕組みと運用）	2		2	講 師 P h . D . 大 川 英 明
	国際表象文化関連	比較文化研究 F1（日中比較文化）	2		2	講 師 博士(国際関係) 小 田 切 文 洋
		比較文化研究 F2（日中比較文化）	2		2	講 師 博士(国際関係) 小 田 切 文 洋
		国 際 表 象 文 化 研 究 A1	2		2	教 授 橋 本 由 紀 子
		国 際 表 象 文 化 研 究 A2	2		2	教 授 橋 本 由 紀 子
		国 際 表 象 文 化 研 究 B1	2		2	講 師 平 野 明 彦
		国 際 表 象 文 化 研 究 B2	2		2	講 師 平 野 明 彦
	比較社会関連	国 際 表 象 文 化 研 究 C1	2		2	特 任 教 授 宗 形 賢 二
		国 際 表 象 文 化 研 究 C2	2		2	特 任 教 授 宗 形 賢 二
		比較社会研究 A1（臨床心理）	2		2	教 授 有 木 永 子
		比較社会研究 A2（臨床心理）	2		2	教 授 有 木 永 子
		比較社会研究 A1（社会心理）	2		2	教 授 博士(心理学) 伊 坂 裕 子
		比較社会研究 A2（社会心理）	2		2	教 授 博士(心理学) 伊 坂 裕 子
		比較社会研究 A1（日米比較社会）	2		2	准 教 授 P h . D . 武 井 勲
		比較社会研究 A2（日米比較社会）	2		2	准 教 授 P h . D . 武 井 勲
		比 較 社 会 研 究 B1	2		2	教 授 永 塚 史 孝
		比 較 社 会 研 究 B2	2		2	教 授 永 塚 史 孝
		比 較 社 会 研 究 C1	2		2	教 授 P h . D . 小 川 直 人
		比 較 社 会 研 究 C2	2		2	教 授 P h . D . 小 川 直 人

専攻分野	関連群	授 業 科 目	単位数	必修単位数	選択単位数	科 目 担 当 者
国際文化	比較社会関連	比 較 社 会 研 究 D1	2		2	教 授 富士原 雅 弘
		比 較 社 会 研 究 D2	2		2	教 授 富士原 雅 弘
		比 較 社 会 研 究 E1	2		2	教 授 博士(福祉社会学) 上 田 光 明
		比 較 社 会 研 究 E2	2		2	教 授 博士(福祉社会学) 上 田 光 明
	翻訳学関連	翻 訳 理 論 1	2		2	教 授 芳 賀 理 彦
		翻 訳 理 論 2	2		2	教 授 芳 賀 理 彦
		翻 訳 法 1	2		2	(本年度は開講せず)
		翻 訳 法 2	2		2	(本年度は開講せず)
		外 国 文 献 研 究 A1	2		2	特 任 教 授 宗 形 賢 二
		外 国 文 献 研 究 A2	2		2	特 任 教 授 宗 形 賢 二
		外 国 文 献 研 究 B1	2		2	(本年度は開講せず)
		外 国 文 献 研 究 B2	2		2	(本年度は開講せず)
		外 国 文 献 研 究 C1	2		2	(本年度は開講せず)
		外 国 文 献 研 究 C2	2		2	(本年度は開講せず)
		特 別 講 座 I	2		2	(本年度は開講せず)
		特 別 講 座 II	2		2	(本年度は開講せず)
研 究 指 導 文 学	研究指論	I II	4	4		教 授 博士(学術) 浅 川 道 夫
			4	4		教 授 有 木 永 子
						教 授 博士(心理学) 伊 坂 裕 子
						教 授 博士(福祉社会学) 上 田 光 明
						教 授 P h . D . 小 川 直 人
						教 授 小 野 健 太 郎
						教 授 博士(安全保障学) 佐 野 秀 太 郎
						教 授 穴 戸 学
						教 授 博士(農学) 鈴 木 和 信
						教 授 P h . D . 角 田 哲 康
						教 授 博士(国際関係) 蓼 沼 智 行
						教 授 博士(国際関係) 鄭 助 燮
						教 授 博士(経済学) 陳 文 拳
						教 授 富 岡 丈 朗
						教 授 永 塚 史 孝
						教 授 生 内 裕 子
						教 授 橋 本 由 紀 子
						教 授 P h . D . 松 本 佐 保
						教 授 P h . D . 渡 邊 武 一 郎

大学院国際関係研究科コースプログラム

1 趣旨

大学院国際関係研究科コースプログラムとは、大学院生の幅広い知識修得と高度な専門能力の向上、更に学生の学習意欲をかき立てることを目的とし、本研究科博士前期課程の修了要件とは別に、体系づけられた科目群からなるコースを履修し、特定分野の学習成果を国際関係研究科として認証する制度である。

2 コースプログラム

コースプログラムの内容は、本研究科博士前期課程の開講科目を基に、当該課程の修了要件とは別に定める。

コースプログラムには、「安全保障コースプログラム」と「翻訳コースプログラム」の2種類がある。

3 コースプログラム修了条件

- ① コースプログラムの履修者は、本研究科博士前期課程（標準・1年コース）の正規生を対象とし、各学年の学期の始めに、別に定める所定の期間内に希望コースの申請をし、コース履修の許可を受けなければならない。
- ② コースプログラム修了条件は、各コースプログラムから、その履修条件に従い16単位以上修得するものとする。

4 修了証

修了者には、修了学期ごとに、本研究科長名で修了証を授与するものとする。ただし、各種証明書としては発行しないものとする。

5 付記

本コースプログラムは、平成27年度大学院国際関係研究科博士前期課程入学生から適用する。

『安全保障コースプログラム』指定科目・履修条件一覧表

1 設置目的

安全保障コースプログラムは、安全保障問題に関する高度な専門知識を有する人材の養成を目的として設置するものである。

2 指定科目・履修条件等

整理 番号	授業科目名	単位数	設置 学年	履修期 (前期・後期・年間)	受入可能人数	履修条件等
1	安全保障研究 1	2	1	前期	若干名	コース必修科目
2	安全保障研究 2	2	1	後期	若干名	コース必修科目
3	戦略論研究 1	2	1	前期	若干名	コース必修科目
4	戦略論研究 2	2	1	後期	若干名	コース必修科目
5	国際関係研究 A 1	2	1	前期	若干名	左記の科目のうち 4 単位以上修得
6	国際関係研究 A 2	2	1	後期	若干名	
7	国際関係研究 B 1	2	1	前期	若干名	
8	国際関係研究 B 2	2	1	後期	若干名	
9	国際関係研究 C 1	2	1	前期	若干名	
10	国際関係研究 C 2	2	1	後期	若干名	左記の科目のうち 4 単位以上修得
11	国際法研究 A 1	2	1	前期	若干名	
12	国際法研究 A 2	2	1	後期	若干名	
13	国際法研究 B 1	2	1	前期	若干名	
14	国際法研究 B 2	2	1	後期	若干名	

3 履修要項

- ① 修得単位数は 16 単位とする。
- ② 履修申請時期は、各学年の学期の始めとする。
- ③ 申請時期、手続きその他詳細については、LCUのお知らせ掲示板をもって周知する。
- ④ 授業科目の履修期（前期・後期・通年）は、毎年度の時間割により変更する場合がある。

『翻訳コースプログラム』指定科目・履修条件一覧表

1 設置目的

翻訳コースプログラムは、翻訳の理論・方法・実践に関する高度な知識と技術を有する人材の育成を目的として設置するものである。

2 指定科目・履修条件等

整理 番号	授業科目名	単位数	設置 学年	履修期 (前期・後期・年間)	受入可能人数	履修条件等
1	翻訳理論 1	2	1	前期	若干名	コース必修科目
2	翻訳理論 2	2	1	後期	若干名	コース必修科目
3	翻訳法 1	2	1	前期	若干名	コース必修科目
4	翻訳法 2	2	1	後期	若干名	コース必修科目
5	外国文献研究 A 1	2	1	前期	若干名	左記の科目のうち 8単位以上修得
6	外国文献研究 A 2	2	1	後期	若干名	
7	外国文献研究 B 1	2	1	前期	若干名	
8	外国文献研究 B 2	2	1	後期	若干名	
9	外国文献研究 C 1	2	1	前期	若干名	
10	外国文献研究 C 2	2	1	後期	若干名	

3 履修要項

- ① 修得単位数は16単位とする。
- ② 履修申請時期は、各学年の学期の始めとする。
- ③ 申請時期、手続きその他詳細については、LCUのお知らせ掲示板をもって周知する。
- ④ 授業科目の履修期（前期・後期・通年）は、毎年度の時間割により変更する場合がある。

令和6年度学位（修士）論文提出要領

学位（修士）論文提出に関する日程

1 「学位論文提出届」提出期間

令和7年1月14日（火）～15日（水）

「学位（修士）論文提出届」（別紙）を切り離して提出すること。

・住民票記載事項証明書1通を添付する。

※学籍簿・学位記（氏名・生年月日）確認のため。

2 学位論文（口述試験用）提出期間

令和7年1月20日（月）～21日（火） 10時～16時（厳守）

学位論文を2部（正1部，副1部：ダブルクリップで止める）教務課へ提出すること。

3 最終試験

令和7年2月5日（水）

集合時刻 9時40分 集合場所 教務課

口述試験 修士論文の内容を中心とし，これに関連のある領域について試問します。

※ 学生証及び論文を持参すること。

学位（修士）論文製本申込方法について

1 「学位（修士）論文製本申込書」提出日

令和7年2月12日（水）～13日（木）9時～17時

「令和6年度学位（修士）論文製本申込書」を切り離し，製本料（5,500円／1部）の証紙と製本する部数分の論文を添えて教務課へ提出すること。

2 製本用論文の部数

① 本学図書館保管用に1部（A4両面で提出）

② ①以外に本人の製本希望部数（A4片面又は両面で提出）

※ 製本した論文を宅配便で返却を希望する場合，着払いで送付するので申し出ること。

※ 最終試験で指摘された箇所を修正し，研究指導教員から許可を得た上で，指定された日時までに教務課に提出すること。

学位（修士）論文の用紙・書式

1 日本語の場合

- ① A 4 判白色上質紙を使用し、**片面印刷**とし、注及び参考文献などは巻末にまとめること。
- ② 文字サイズは表紙 14 ポイント、目次・本文は 12 ポイント、1 行字数は 40 字、1 頁 36 行とする。
- ③ 論文題名・副題・研究指導教員（主）・（副）名を記入する。
- ④ ページ番号は、表紙・目次を除き、本文から付番する。

令和〇〇年度 修士論文
論文名
—副題—
研究指導教員（主）：○ ○ ○ ○
研究指導教員（副）：○ ○ ○ ○
日本大学大学院国際関係研究科国際関係研究専攻
博士前期課程（学生番号）
日 大 太 郎

2 英語の場合

- ① A 4 判白色上質紙を使用し、**片面印刷**とし、ダブルスペースで入力し、注及び参考文献などは巻末にまとめること。

学位（修士）論文は、研究指導教員の指示に従って作成してください。

学位（修士）論文審査に係る評価のポイント

- 1 論文の題名は内容に対して適切であるか。
 - 2 問題意識が明確であるか。
 - 3 構成は適切であるか。
 - 4 先行研究に対して必要なレビューをしているか。
 - 5 論述の論理性は適切であるか。
 - 6 参考（引用）文献は適切であるか。
- ※ 上記ポイントとは別に、研究分野に応じて個別のポイントが付加される場合があります。

その他

日本大学大学院国際関係研究科博士後期課程に進学希望者は、入学試験出願時（第 1 期 9 月・第 2 期 1 月）に学位論文を提出することになります。

博士後期課程

博士後期課程

修業年限

博士後期課程の標準修業年限は、3年とする。

学 位

博士課程の後期3年の課程に入学した者については、大学院に3年以上在学し国際関係研究科においては12単位以上を当該課程で専攻科目について修得し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

(学則第106条第5項抜粋)

国際関係研究科 国際関係研究専攻 博士(国際関係)

学位論文の提出にあたっては、研究指導教員の許可を受けた上で、「学位審査実施要項」(pp. 60～63)を参照の上、11月末日までに教務課へ提出してください。

〔参考〕:「日本大学学則抜粋」,「日本大学学位規程」,「日本大学大学院国際関係研究科学位(博士)論文審査に関する申合せ」(pp. 72～83)

在学年数

大学院における在学年数は、博士後期課程6年を超えることができない。

(学則第106条第14項抜粋)

博士課程に標準修業年限在学し、所定の単位だけを修得して、課程を修了しない者が、引き続き学生として在学する場合は、本条第14項に定める在学年数(博士後期課程6年)の範囲内において、当該大学院分科委員会の許可を受けなければならない。

(学則第106条第7項, 14項抜粋)

原則として、課程博士の学位申請論文提出を前提に再入学を許可します。

研究指導教員と学位(博士)論文

入学時の研究テーマにより研究指導教員は決定され、「特別研究指導Ⅰ」「特別研究指導Ⅱ」「特別研究指導Ⅲ」を通じて学位論文の指導を受けます。また研究テーマの領域により必要に応じて、研究指導補助教員(サポート教員を含む)からも指導を受けます。

課程による学位(博士)論文審査に係る評価ポイント

- 1 論文の題名は内容に対して適切であるか
- 2 問題意識が明確であるか
- 3 構成は適切であるか
- 4 先行研究に対して必要なレビューをしているか
- 5 論述の論理性と客観性は適切であるか
- 6 参考(引用)文献は適切であるか
- 7 新たな知見を包含した論述を展開しているか

※上記評価ポイントに加えて、研究分野に応じて個別の評価ポイントが付加される場合があります。

令和6年度博士後期課程授業科目及び単位数並びに履修方法と科目担当者

国際関係研究科における授業科目及び単位数並びにその履修方法及び教員紹介は、次のとおりである。
(学則第125条)

国際関係研究専攻（博士後期課程）

専攻分野	授 業 科 目	単位数	必修単位数	選択単位数	科 目 担 当 者
国 際 関 係	国際関係特別研究（外交・紛争）	4		4	教 授 博士(安全保障学) 佐 野 秀太郎
	国際関係特別研究（政治理論）	4		4	教 授 博士(国際関係) 鄭 勛 燮
	国際関係特別研究（安全保障）	4		4	講 師 博士(国際関係) 吉 本 隆 昭
	国際政治特別研究（軍事戦略）	4		4	教 授 博士(学術) 浅 川 道 夫
	国際政治特別研究（比較政治）	4		4	特 任 教 授 石 田 勝 之
	地域統合特別研究（国際取引）	4		4	教 授 小 野 健太郎
	国際経済特別研究（観光）	4		4	教 授 穴 戸 学
	国際経済特別研究（中国経済）	4		4	教 授 博士(経済学) 陳 文 挙
	国際経済特別研究（財政）	4		4	特 任 教 授 博士(国際関係) 大 淵 三 洋
	日米経済特別研究	4		4	講 師 P h . D . 法 専 充 男
	国際貿易特別研究	4		4	(本年度は開講せず)
	国際経営特別研究	4		4	教 授 博士(国際関係) 蓼 沼 智 行
	国際金融特別研究	4		4	(本年度は開講せず)
	国際開発協力特別研究(環境と開発)	4		4	教 授 博士(農学) 鈴 木 和 信
	国際開発協力特別研究(地球環境問題)	4		4	特 任 教 授 博士(工学) 山 中 康 資
	国際開発協力特別研究(国際協力)	4		4	教 授 富 岡 丈 朗
	国際環境・資源特別研究	4		4	講 師 博士(工学) 堅 尾 和 夫
国 際 文 化	日米関係史特別研究（日米関係）	4		4	特 任 教 授 P h . D . 小 代 有 希 子
	日米関係史特別研究（日米交流）	4		4	特 任 教 授 博士(国際関係) 濱 屋 雅 軌
	西洋文化特別研究（思想文化）	4		4	教 授 P h . D . 角 田 哲 康
	西洋文化特別研究（宗教文化）	4		4	教 授 P h . D . 松 本 佐 保
	西洋文化特別研究（精神文化）	4		4	講 師 平 野 明 彦
	東洋文化特別研究（仏教思想）	4		4	教 授 P h . D . 渡 邊 武 一 郎
	東洋文化特別研究（中国文化）	4		4	特 任 教 授 呉 川
	東洋文化特別研究（宗教）	4		4	講 師 高 橋 章
	日英比較文化・文学特別研究	4		4	教 授 生 内 裕 子
	日米比較文化・文学特別研究（教育）	4		4	教 授 永 塚 史 孝
	日米比較文化・文学特別研究（表象文化）	4		4	特 任 教 授 宗 形 賢 二
	日独比較文化・文学特別研究	4		4	講 師 博士(国際関係) 田 中 徳 一
	日仏比較文化・文学特別研究	4		4	(本年度は開講せず)
	日本比較文化・文学特別研究	4		4	講 師 博士(国際関係) 小 田 切 文 洋
	異文化コミュニケーション特別研究（臨床心理）	4		4	教 授 有 木 永 子
	異文化コミュニケーション特別研究（文化心理）	4		4	教 授 博士(心理学) 伊 坂 裕 子
	異文化コミュニケーション特別研究（犯罪社会学）	4		4	教 授 博士(福祉社会学) 上 田 光 明
	異文化コミュニケーション特別研究（文化の比較方法）	4		4	教 授 P h . D . 小 川 直 人
特 別 研 究 指 導 I 特 別 研 究 指 導 II 特 別 研 究 指 導 III 学 位 論 文					教 授 博士(学術) 浅 川 道 夫
					教 授 小 野 健太郎
					教 授 P h . D . 角 田 哲 康
					教 授 博士(国際関係) 蓼 沼 智 行
					教 授 博士(国際関係) 鄭 勛 燮
					教 授 博士(経済学) 陳 文 挙
					教 授 永 塚 史 孝
					教 授 P h . D . 渡 邊 武 一 郎

具 体 的 履 修 方 法

区 分		1 年 次		2 年 次		3 年 次	単位合計
講 義 科 目	国際関係	(1)主たる 専攻分野 の授業科目	1 科目 4 単位以上	(3)主たる 専攻分野 の授業科目	1 科目 4 単位以上		1 2 単位以上
	国際文化	(2)他の専攻 分野の授 業科目	1 科目 4 単位以上				
研究指導教員の 研究指導		特別研究指導Ⅰ		特別研究指導Ⅱ		特別研究指導Ⅲ	

博士論文提出までのステップ

年次	時期	内容	研究指導概要
1 年次	4 月～	特別研究指導教員による研究指導及び論文指導	①院生の研究計画に基づき、研究する上で、何が課題かを見出し、どのような指導が必要なのかを明確にする。 ②研究テーマにあった資料・情報入手の仕方や研究方法についてともに考える。
2 年次	4 月～	特別研究指導教員による研究指導及び論文指導	①これまでの研究を振り返り、当初の計画通り進んでいるかをチェックする。 ②計画の修正が必要ならば、どのように変更することが望ましいかをともに考える。また、より具体的な研究方法・研究計画のための助言と指導を行う。
	4 月	特別研究指導教員による研究指導及び論文指導	①前年度までの研究から、どの程度進捗したかを確認する。 ②研究がうまくいかない場合は、困難な点を聞き、相談に応じる。また、博士論文執筆に必要な条件等を確認し、それらの要件を満たすにはどうしたらよいかを考えさせ、質問や相談に応じる。
3 年次		学位（博士）論文提出の旨、特別研究指導教員への申出	論文提出の旨を特別研究指導教員を経て、教務課へ申し出る。
	6 月	学位（博士）論文提出届提出	論文提出届出を特別指導教員を経て、教務課へ提出する。
		学位（博士）論文予備試験実施の審議	大学院専門委員会及び大学院分科委員会にて予備試験実施を審議する。
		予備試験申請手続書類提出	履歴書、博士論文研究計画書、推薦書を教務課へ提出する。
	7 月	学位（博士）論文予備試験	外国語（筆記）、専門領域（筆記）及び予備面談を実施する。
		学位（博士）論文予備試験結果の審議	大学院専門委員会及び大学院分科委員会にて予備試験結果を審議する。
		学位（博士）論文予備試験結果の通知	予備試験結果の可否を院生及び特別研究指導教員に通知する。
	1 1 月	学位論文申請に係る書類の提出	学位申請書、履歴書、論文目録、論文、論文の内容の要旨等を特別研究指導教員を経て、教務課に提出する。
		学位論文査読者の決定	大学院専門委員会及び大学院分科委員会にて論文査読者の決定を審議する。
	1 2 月	学位論文審査開始	論文査読者による論文審査を行う。
3 年次	1 月	最終試験実施（公聴会に代えることが可）	公聴会で助言と指導を行う。 提出された論文を中心に口頭試問をする。最終試験は、公聴会に代えることができる。
	2 月	学位の授与について審議（修了判定）	大学院分科委員会にて学位の授与について審議する。
	3 月	学位記授与	